

## 2016 年行事予定

12月17日(土) 第2回常任幹事会

## 巻頭言

日本臨床検査専門医会

第27回春季大会長 〆谷直人

### 【目次】

|     |  |
|-----|--|
| p.1 | 巻頭言：第27回春季大会にあたって  |
| p.2 | 事務局からのお知らせ、第33回臨床検査専門医認定試験結果、第49回日本臨床検査専門医会総会報告、平成28年度総会講演会報告、第63回日本臨床検査医学会学術集会共催企画報告  |
| p.3 | 平成28年度「全国検査と健康展」報告、平成29年度第27回春季大会のお知らせ、平成29年度第7回生涯教育講演会のお知らせ、平成28～29年度行事予定、平成28年度会費振込みのお願い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、会員の声：臨床検査専門医を目指すことになった“3つの転機” |
| p.4 | 会員の声：自己紹介 臨床検査専門医の一員になりました   |
| p.5 | 会員の声：日本臨床検査専門医会の入会に際して、臨床検査専門医試験に合格して  |
| p.6 | 会員の声：そして伝説へ・・・、編集後記  |

### 第27回春季大会にあたって

今年もいよいよ残りわずかとなってしまいましたが、お元気でご活躍のことと存じます。この度、第27回日本臨床検査専門医会春季大会を熱海市で開催させていただくことになりました。本会の学術集会は毎年地方で開催されており、熱海の地で27回目を迎えることを非常に嬉しく思います。是非、多くの先生方にご出席をお願い申し上げます。

春季大会とはいえ、例年とは異なり、大会は早春の2月24日(金)、25日(土)に太平洋を一望するホテルリゾーピア熱海で開催します。「臨床検査専門医のアイデンティティー」をメインテーマとし、1日目には生涯教育講演2題、特別講演1題、2日目には午前中にパネルディスカッションと午後にワークショップを予定しています。

生涯教育講演は、大西宏明教授(杏林大学医学部)による「採血合併症の予防と対応のポイント」と堤寛教授(藤田保健衛生大学医学部)による「病理診断部門におけるセーフティマネジメント」です。

特別講演は、「臨床検査室の精度管理の仕方—品質保証のプロセス管理—」と題し、臨床検査室の品質マネジメントシステム(QMS)を取り上げました。臨床検査におけるQMS構築のためのツールとしては、ISO 15189やCAP、JCIがあります。演者の久保野勝男教授(新潟医療福祉大学医療技術学部)は、本年6月まで日本適合性認定協会(JAB)の執行理事を務めておられ、わが国のISO 15189の認定において創成期より力を尽されてきました。臨床医や患者の満足度を向上させる「信頼性の高い臨床検査室」を構築するための参考にしてください。

「望まれる臨床検査専門医とは」をテーマにしたパネルディスカッションは、松月みどり教授(愛知医科大学看護学部)に看護師の立場から、山田成樹教授(藤田保健衛生大学医学部)に薬剤師の立場から、横山一紀会長(神奈川県臨床衛生検査技師会)に臨床検査技師の立場から、三村邦裕教授(千葉科学大学危機管理学部)に臨床検査教育の教員の立場からと、4名がそれぞれの立場で求めている臨床検査専門医像について忌憚のない意見を述べていただきます。

「理事長(会長)を務める臨床検査専門医が語るアイデンティティーとハーモニー」をテーマにしたワークショップは、日本臨床検査同学院の水口國雄理事長と宮地勇人副理事長の司会で、わが国の臨床検査を代表する日本臨床検査医学会、日本臨床検査自動化学会、日本臨床化学会、日本検査血液学会、日本臨床検査専門医会の5団体より、矢富裕理事長、康東天理事長、前川真人代表理事、通山薫理事長、登勉会長をお招きし、5名を一堂に会してお話を伺います。私としては、今年25回目を迎える「日本消化器関連学会週間(JDDW)」のように、そう遠くないいつの日かには「日本臨床検査関連学会週間」として臨床検査関連の学会が一堂に集まり学術集会を行うことを望んでいます。そうなればプログラムも今以上に充実し、しかも大々的な展示会もできて、海外からも多くの参加者を集められることでしょう。

生涯教育講演は、新専門医制度に基づく「専門医共通講習(医療安全)」、特別講演とパネルディスカッションは、「臨床検査領域講習」の単位が取得できます。

伊豆半島の東側付け根に位置し相模灘に面する熱海は、古くから湯治の地であり、現在はかつてほどの盛況は見受けられないものの、東京方面からの保養地・日帰り温泉地として相応の賑わいを保っています。明治19年に開園した「日本一早咲きの梅」で知られる熱海梅園は、毎年11月下旬～12月上旬に第一号の梅の花が開きます。学術集会を開催する2月には梅と早咲きのあたま桜を堪能していただきたいと思います。多くの先生方のお越しをお待ちしております。

### 会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！  
テーマは自由、文字数も自由です。  
是非ともご意見をお寄せください。

#### 【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局  
まで、メールにてお送りください。  
E-mail: [senmon-i@jaclp.org](mailto:senmon-i@jaclp.org)

ご寄稿をお待ち申し上げます。

## 【事務局からのお知らせ】

## 《会員動向》

2016年12月1日現在 会員数 765名、専門医 618名

## 《新入会員》(敬称略)

吉野 麻衣：飯塚病院総合診療科

野尻明由美：東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部

## 《所属・その他変更》(敬称略)

福島 万奈：旧 信州大学医学部分子病理学

新 千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学

五十嵐誠治：旧 栃木県立がんセンター臨床検査部

新 財団法人 慈山会医学研究所付属坪井病院  
病理診断科

古田 耕：旧 国立がんセンター中央病院臨床検査部

新 神奈川県立がんセンター医療技術部

神辺 眞之：旧 世羅中央病院企業団

新 国家公務員共済連合会共済病院 相談役

佐藤 仁哉：旧 自衛隊中央病院診療技術部病理課

新 防衛医科大学校病態病理学 准教授

## 《退会会員》(敬称略)

小柳津直樹：

## 《訃報》

黒川 一郎 先生 2016年10月3日ご逝去(本会 名誉会員)

ご冥福をお祈り申し上げます。

## 【第33回臨床検査専門医認定試験結果】

2016年7月23日(土)～7月24日(日)に、日本臨床検査医学会主催の第33回臨床検査専門医認定試験が杏林大学医学部で行われ、27名が合格いたしました。合格者は全員本会会員です。合格おめでとございます。今後のご活躍を期待します。

## (50音順/敬称略)

藍 智彦、和泉 透、上糞 義典、江橋 正浩、  
江原 佳史、小笠原洋治、尾崎 敬、菅野 宙子、  
蔵野 信、小飼 貴彦、後藤 和人、志方えりさ、  
高城 一郎、竹下 享典、近澤 悠志、成瀬 寛之、  
西川 真子、東上里康司、藤井 聡、藤原 亨、  
宮居 弘輔、矢嶋 信久、柳原 希美、山岸 由佳、  
山本 絢子、横井 左奈、横山 直之

## 【第49回日本臨床検査専門医会総会報告】

第49回日本臨床検査専門医会総会は2016年9月1日(木)神戸国際会議場にて開催されました。

## 審議事項

第一号議案：平成29年度予算案について(別表)

第二号議案：平成29年度名誉会員、有功会員の推薦について

第一号～第二号議案は承認されました。

なお、名誉会員・有功会員として承認されたのは以下の先生方です。

## 名誉会員

影岡 武士 先生、熊谷 俊一 先生、渡辺伸一郎 先生

|     |           | 項目             | 平成28年度予算          | 平成29年度予算          |
|-----|-----------|----------------|-------------------|-------------------|
| 収入欄 | 入金        | 会員会費           | 6,475,000         | 6,590,000         |
|     |           | 賛助会員会費・寄付金     | 4,000,000         | 3,700,000         |
|     |           | <b>小計</b>      | <b>10,475,000</b> | <b>10,290,000</b> |
|     | その他       | 広告収入           | 200,000           | 400,000           |
|     |           | 教育セミナー参加費      | 350,000           | 400,000           |
|     |           | 生涯教育講演会参加費     | 100,000           | 150,000           |
|     |           | 振興セミナー参加費      | 100,000           | 100,000           |
|     |           | 利息             | 5,000             | 5,000             |
|     | <b>小計</b> | <b>755,000</b> | <b>1,055,000</b>  |                   |
|     |           |                | <b>入金合計</b>       | <b>11,230,000</b> |
| 支出欄 | 庶務経費      | 事務局雑費          | 150,000           | 150,000           |
|     |           | 通信費(事務局)       | 170,000           | 170,000           |
|     |           | 人件費            | 1,500,000         | 1,500,000         |
|     |           | FAX使用料         | 60,000            | 60,000            |
|     |           | 事務所維持費         | 1,700,000         | 1,700,000         |
|     |           | 設備費            | 150,000           | 150,000           |
|     |           | <b>小計</b>      | <b>3,730,000</b>  | <b>3,730,000</b>  |
|     | 事業経費      | 印刷代            | 2,000,000         | 2,000,000         |
|     |           | 要覧印刷代          | 550,000           | 0                 |
|     |           | 通信費            | 800,000           | 800,000           |
|     |           | 春季大会補助金        | 500,000           | 500,000           |
|     |           | 臨床検査振興セミナー費    | 950,000           | 900,000           |
|     |           | 教育セミナー費        | 750,000           | 700,000           |
|     |           | 会議費            | 1,000,000         | 1,000,000         |
|     |           | 交通費            | 70,000            | 100,000           |
|     |           | 宿泊費            | 20,000            | 30,000            |
|     |           | 原稿料            | 100,000           | 100,000           |
|     |           | 専門医ネットワーク開発費   | 864,000           | 0                 |
|     |           | 専門医ネットワーク維持費   | 0                 | 180,000           |
|     |           | HP維持費          | 170,000           | 170,000           |
|     |           | 広報活動費(委員会HP)   | -                 | 100,000           |
|     |           | JCLS会費         | 50,000            | 50,000            |
|     |           | WASPALM会費      | 60,000            | 60,000            |
|     |           | 臨床検査振興協議会      | 300,000           | 300,000           |
|     |           | 内保連            | 200,000           | 200,000           |
|     |           | 予備費            | 0                 | 425,000           |
|     |           | <b>小計</b>      | <b>8,384,000</b>  | <b>7,615,000</b>  |
|     |           | <b>出金合計</b>    | <b>12,114,000</b> | <b>11,345,000</b> |
|     |           | <b>収支決算</b>    | <b>-884,000</b>   | <b>0</b>          |

## 有功会員

明石 實次 先生、遠藤 久子 先生、大林 民典 先生、  
海津 省二 先生、金城 満 先生、鈴木 豊 先生、  
中嶋 安彬 先生、新谷 憲治 先生、吉田 治義 先生

## 報告事項

1. 平成28年度中間会計報告
2. 各種委員会等報告
3. 「検査と健康展」共催について
4. 臨床検査医学会学術集会関連行事
5. 第27回春季大会について
6. 第28回春季大会について

## 【平成28年度総会講演会報告】

第49回日本臨床検査専門医会総会に引き続き神戸国際会議場において総会講演会が開催されました。本年は本会会長登 勉 先生に「わが国の保険医療制度にみる専門医の意義～臨床検査専門医がロールモデルになるために～」についてご講演いただきました。

## 【第63回日本臨床検査医学会学術集会共催企画報告】

第63回日本臨床検査医学会学術集会での本会共催企画として、以下の共催シンポジウムおよびワークショップが開催されました。いずれも多数の先生方にご参加いただきました。特に昨年までの「臨床検査を学ぶ若手医師の会」の後継企画である共催ワークショップには多数の若手医師と本会幹事・

役員等の参加をいただき盛況となりました。

＜共催シンポジウム＞

2016年9月3日(土)シンポジウム13

「新人専門医がいどむ“検査データの読み方”～

“熟年専門医”と“新人専門医”による日常検査のよみ方講座」

＜共催ワークショップ＞

2016年9月3日(土)

「新専門医時代～臨床検査医学がアピールできること」

第一部 「臨床検査専門医のワークライフバランス」

第二部 「臨床検査専門医の生涯教育を考える」

### 【平成28年度「全国検査と健康展」報告】

本年度も11月11日(金)「臨床検査の日」に合わせて実施された「全国検査と健康展」(日本臨床衛生検査技師会主催)で、多数の臨床検査医の先生方に「検査説明・健康相談」への協力をいただきました。本年度は10月2日～11月27日まで、全国20会場、延べ40名の先生がボランティアとして派遣されました。ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

### 【平成29年度第27回春季大会のお知らせ】

大会長：メ谷 直人 教授(国際医療福祉大学熱海病院)

メインテーマ：「臨床検査専門医のアイデンティティー」

会場：ホテルリゾーピア熱海

会期：2017年2月24日(金)～25日(土)

プログラムは本会HPより春季大会をご参照ください。

2月24日夕には懇親会も予定されています。奮ってご参加ください。

### 【平成29年度第7回生涯教育講演会のお知らせ】

春季大会に先立ち、平成29年度第7回生涯教育講演会が開催されます。本講演会はすべての会員を対象としたリスクマネジメントと検査室管理に関する講演会です。

本講演会は、日本臨床検査医学会のリスクマネジメントに関する講習会として認定されています。臨床検査専門医、臨床検査管理医の方は本講演会への参加により資格更新単位5点を取得することができます。また、本企画は日本専門医機構「臨床検査専門医認定・更新に係る「専門医共通講習(医療安全)」2単位に認定されています。

日時：2017年2月24日(金) 13:30～15:30

会場：ホテルリゾーピア熱海

参加費：2,000円

司会：本田 孝行 先生(信州大学医学部病態解析診断学)、  
米川 修 先生(社会福祉法人聖隷福祉事業団

聖隷浜松病院臨床検査科)

1. 採血合併症の予防と対応のポイント

大西 宏明 先生(杏林大学医学部臨床検査医学教室)

2. 病理診断部門におけるセーフティーマネジメント

堤 寛 先生(藤田保健衛生大学医学部病理学)

### 【平成28～29年度行事予定】

平成28～29年度 日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。平成29年度各種会議等の予定については決定次第 JACLAP WIRE、JACLAP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。  
平成28年

12月17日(土)

第2回常任幹事会(日本臨床検査専門医会事務局)

平成29年

2月24日(金)

第6回生涯教育講演会(ホテルリゾーピア熱海)

2月24日(金)～25日(土)

第27回日本臨床検査専門医会春季大会

(ホテルリゾーピア熱海)

(平成29年度第1回総会、全国幹事会を予定)

11月16日(木)～19日(日)

第64回日本臨床検査医学会学術集会(国立京都国際会館)

(平成29年度第2回総会、全国幹事会を予定)

### 【平成28年度会費振込みのお願い】

本会の会計年度は1月～12月となっています。平成28年度の会費が未納となっている先生には年度内の振込をお願いします。尚、未納分のある会員の方々は合計額の振込をお願いします(納入状況は先に送付しました振込用紙に記載してあります)。

平成28年度年会費：10,000円

(平成28年1月1日現在、70歳以上の方は5,000円)

郵便振込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。

過去2年間会費を滞納している先生には、LabCP、JACLAP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

### 【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLAP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、変更した旨を事務局までメールでご連絡下さい。

＜連絡先＞日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話・FAX：03-3864-0804 アドレス：senmon-i@jaclp.org

### 【会員の声】

#### 臨床検査専門医を目指すことになった“3つの転機”

“五十嵐くん、担当患者さんの検査と一緒に見てきたら？”

これは、自分が研修医1年目にローテートしていた腎臓高血圧内科のオーベン、K先生からの提案でした。その患者さんには虚血性心疾患の疑いがあり、K先生から質問された心電図を読み間違えたことが提案のきっかけだったと覚えています。この提案を聞いたとき「こっちは忙しいのに、なんで検査なんか見に行かなきゃならないの？」と思ったのですが、1年目でオーベンに逆らうことなど到底できません(笑)。そんなわけで、渋々と検査についていったわけですが、検査室の技師さんが心電図の読み方を丁寧に教えてくれ、“ああ、検査結果からはこう考えるべきなのか”と思い、検査に興味を持ったのと同時に、自分達が日常的にオーダーしている“検査の実際”に初めて触れる機会となりました。以降、時間

がとれる際には担当患者さんの検査に同伴させてもらうことが多くなり、内視鏡を始め、エコー、CTなど、様々な検査を学ばせていただきました。これが“1つ目の転機”です。

このような経験、そして元より“治療よりも診断”に興味があった自分は、さらに検査に興味を持つようになりました。そのため、内視鏡検査を習得する目的で消化器肝臓内科に入局、聖マリアンナ医大の分院である川崎市立多摩病院にて、内視鏡を中心とした診療に携わりました。川崎市立多摩病院は市中病院であるため、医師として多くの経験を積ませていただきましたが、それと同時に、夜間呼び出しが頻繁にあるような日々の中では“症例を一例一例吟味しながら診断すること”は困難であることも知りました。

そのため、大学院では“ルーティンで仕事を行うのではなく、ひとつひとつを考えながら、研究を行ってみたい”という気持ちが強くなりました。臨床研究を希望していた自分は、超音波での臨床研究を選択、Acoustic radiation force impulse、略してARFIという超音波による硬度診断が可能な装置を用いて、肝線維化ステージとARFI値に相関関係が得られるか、比較検討を行いました。基礎研究と比較するとアカデミックさに欠けるかもしれませんが、全ての項目において、自身で計画、決定、実行できたのは、大きな自信になりました。この時“毎日追い立てられながら診療するよりも、何かを考えながら決定していく方が自分に向いているのでは？”と感じたのが“2つ目の転機”となり、消化器肝臓内科から臨床検査医学に転科することを決めました。

最後、“3つ目の転機”は、今回の臨床検査専門医受験です。転科後、認定内科医、超音波専門医を取得したものの、もう少し“内科医として多角的な診断を行える知識が欲しい”とも思うようになりました。そこで、臨床検査専門医受験を試みることに。臨床検査医学、臨床血液学、臨床化学、臨床微生物学、臨床免疫学、輸血学、臨床生理学。皆様御存知の通り、これらは臨床検査専門医試験の受験科目ですが、医師になってから10年が経過している今、これだけの科目を学べる機会はまずありません。消化器を中心に学んできた自分にとって、血液や輸血は未知の分野でしたが、これらの科目を修得できれば、自分の診断の幅は確実に広がるだろうと考えました。また、“専門医受験したい”という名目であれば、技師さんの理解、協力を得られやすいであろうという予想もありました(笑)。試験準備にはじっくり1年ほどかけ、技師さんのお陰で何とか合格をいただけた次第です。教えていただいた恩に報いるためにも、今後は“医師が気軽に技師に相談できる、かつ技師が異常を発見した際にも気軽に医師に報告できる”そのような相互関係を持った検査部作りのお手伝いができれば良いと考えています。

以上、長くなってしまいましたが、このような経歴で、自分は“臨床検査の道”を歩ませていただくことになりました。専門医を取得したとはいえ、右も左もわからない新参者ですので、臨床検査にいらっしゃる諸先生方のご指導を賜れば幸いです。最後に、自分の臨床検査専門医受験を快諾、温かく見守って下さった当臨床検査医学講座 信岡教授に心より御礼申し上げます。

(2015年秋寄稿：聖マリアンナ医科大学臨床検査医学講座  
五十嵐岳)

## 自己紹介 臨床検査専門医の一員になりました

皆様、こんにちは。横浜市立市民病院検査部の千葉泰彦と申します。学会などでご挨拶しますと横浜市立大学附属病院と混同される方が多いのですが、別の病院です。650床の、高度急性期を目指す病院で、神奈川県で唯一の第一種感染症

指定医療機関でもあります。当院は2020年に新病院に移転を予定しています。公立病院も健全経営が求められる中、検査部は収益に貢献していると自負していますが、まだまだ業務改善、効率化の余地はあるはずで、PDCAを回していかなければなりません。

私が当院に検査部長として就職して4年半になります。父親が血液内科医で、臨床検査の仕事もしていたので不思議な縁を感じています。私自身は2年間の臨床研修後に外科医として数年働いた後、医局を離れ少年院、拘置所、少年鑑別所などの矯正施設で14年間、被收容者の健康管理医として大変貴重な体験をさせていただきました。なかでも11年間勤務した横浜少年鑑別所では、いわゆる非行少年の多くが元々はイジメの被害者であり、周囲の大人から適切な援助が受けられなかったり繰り返し裏切られてきた経験から大人や社会への不信感を持っていること、女子では特に自殺のリスクも高いことを学びました。

当院では、検査部業務の他に、もともと乳癌術後の患者さんを外来で診療していたことから、術後のリンパ浮腫予防から治療に関わる多職種チームを結成し毎月定例会を開催しています。また、日本医師会の産業医資格を取り、本年4月からは当院の産業医を委嘱されています。検査部発の接遇向上を掲げ、積極的に笑顔で挨拶することを実践しています。コミュニケーションの質を上げるため、母親から言われ続けてきた「感謝の気持ちと謙虚な心」を時々思い出すとともに、リーダーシップセミナーで教わった「良い学び、良い言葉、良い思い込み」、常に前向きな言動を意識しています。

専門医取得までの経緯について、少し書かせていただきます。当院は受験に必要な研修歴が認められる認定施設ではありません。ですので、当初は臨床検査管理医資格までしか取ることができないと考えていました。そのような中で神奈川、東京で開催される臨床検査関連のセミナーや学会に参加し、多くの先生にご相談させていただきましたところ、東海大学の宮地先生が快く研修を受け入れて下さいました。教室内の先生方、臨床検査技師の方の温かいご指導のおかげで無事に臨床検査専門医となることが出来ました。こちらでも御礼を申し上げます。ご恩を忘れないよう、私も専門医を目指す先生方をサポートしていきたいと考えています。

父親が多忙な現役医師のまま病気にかかり亡くなったこともあるのですが、一度しかない人生を後悔しないよう、いろいろなことに興味を持ち出かけるようにしています。大学時代はサッカー部だったこともあり、サッカーチームに入った一人息子が小学校を卒業するまでは週末は保護者コーチをしていました。ここ数年は運動不足だったのですが、今年ハーフマラソンを走りました。来年は初フルマラソンに出場することを目標にしています。

2年ほど前から、日本各地の自治体への「ふるさと納税」を始めました。被災地にも寄付しています。各地の特産品をいただけるだけでなく、名前を知らなかった町や村を身近に感じられるようになりました。

所有しているクレジットカードは一時20枚を超えましたが、現在は14枚です。アメックスやダイナースなどは高額な年会費がかかりますが、ユニークな特典がついていて、例えばグルメや旅行が多いライフスタイルなら十分に元は取れます。ディズニーが大好きな方なら、JCBの「THE CLASS」というカードに特別な特典がついていますので、検索してみてください。

一度きりの人生、仕事もプライベートも充実させていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

(2015年秋寄稿：横浜市立市民病院検査部 千葉泰彦)

## 日本臨床検査専門医会の入会に際して

この度、平成28年度に臨床検査専門医会に入会させていただき、臨床検査専門医の一員にぐわえていただきました後藤和人と申します。私は平成14年に九州大学医学部を卒業して、九州大学大学院医学研究院病態制御内科学(名和田新教授)に入局しました。以後4年間、肝臓内科医として研鑽を積み、4年半の臨床大学院では九州大学生体防御医学研究所において免疫学(福井宣規教授)の研究を行いました。さらに2年半は地域病院において内科医としての修練を行いました。肝臓内科医としてちょうど11年となり肝臓専門医を取得すると同時に、予期せぬ異動の話を受くこととなりました。公私共に指導していただいた高柳涼一教授(元九州大学理事・副学長)より「君は来年度から検査部に移りなさい。」との内容で、私としてはまったく予期せぬ話でした。これまで同門から検査への転身など前代未聞でありましたが、これも一つのチャレンジと考え九州大学病院検査部に赴任することにしました。

九州大学病院 検査部に赴任した後は、康 東天部長、内海健副部長に直接ご指導頂き、日常の臨床・研究を学ばせて頂きました。特に日本臨床検査医学会学術集会においては、内科の学会とは異なる見聞を深めることができました。赴任した翌年には、第61回日本臨床検査医学会学術集会(学術集会長 康 東天)が福岡で行われ、多くの臨床検査専門医の先生方と交流を持つことができました。毎回、陰ながら参加している「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」では、多くの内科系の臨床検査専門医の先輩方より、「内科医は先生居なくても大丈夫だよ、検査は一人でも増えないといけない。」というアドバイスを受け、検査への気持ちの比重が大きくなっていました。

実際の検査部での業務は、①数少ない紙媒体の検査結果の確認・サイン、②病院内の委員会・ワーキンググループへの参加、③大学院生の指導などを行っています。私自身、これまで7つの病院に勤務してきましたが、実際の検体検査を扱う業務に関しては未知の領域であり、想定外のことが数多くありました。まず、その一例は九州大学病院 検査部の機器更新でした。機器更新は、年末年始の10日程度の休業期間内に半分以上の機器を入れ替え、稼動テストを行い、年始の通常営業日には稼働させねばならないという点でした。多くの検査技師が年末年始にかけて、必死に機器の整備を行っている姿を見て、改めて医療における検査の重要性を再認識しました。また、病院内の各種会議においても、病院のシステム変更、医療安全、院内感染などにおいて検査部の役割が予想外に重要であることに気がつきました。私自身は、今後も臨床検査専門医の必要性が増すと考え、臨床検査専門医を取得するために受験しました。

試験勉強に関しては、院内の講習会、シンポジウムの準備を試験前に予定していたため、20日程度に限定して行いました。実際の試験は、①ペーパー試験は各分野ごとに幅広く知識を確認する内容に、②実技試験は検査専門医として必修の内容と近日にトレンドとなっている内容を折り混ぜたバランスの良い問題でありました。時間的、金銭的制約もあり、陰ながら参加している「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」で頂いた「研修医のための臨床検査・病理 超マニュアル(小倉加奈子/三宅紀子/小栗豊子 著)」、「検査値ベーシックレクチャー(宮地勇人 著)」、学会より配布された「臨床検査のガイドライン JSLM2015」、購入した「標準臨床検査医学(高木康/山田俊幸 編集)」を用いて行いました。日本臨床検査専門医会の教育セミナーで頂いた資料も含めると、膨大な量にな

りますが、これまで学んだことの復習として検査専門医の必須事項を確認しました。これから試験を受ける先生にお勧めするのは、臨床検査専門医は検査のオールラウンダーである必要があるため、日々満遍なく臨床を学ぶべきことです。最後に、検査部に異動してきた後、指導していただいている康部長、内海副部長、堀田技師長、ならびにすべての検査部員に深く感謝申し上げます。今後も、さらに私自身が精進できればと考えます。

(九州大学病院検査部 後藤和人)

## 臨床検査専門医試験に合格して

平成28年度臨床検査専門医試験に合格し、晴れて検査専門医として第一歩を踏み出すことになりました東京大学医学部附属病院 検査部の蔵野 信と申します。

簡単に自己紹介をさせていただきますと、私は、平成16年に東京大学医学部を卒業し、内科、特に代謝・内分泌内科の臨床・研究に従事し、平成22年に糖尿病専門医、代謝栄養病態学専攻にて平成23年に医学博士を取得しました。その後、学位審査でお世話になりました現・臨床検査医学会の理事長であります矢富教授に声をかけていただき、病態診断医学講座・病院検査部にて研究・臨床に励んでおります。

臨床検査における専門領域は、臨床化学でして、主にリポ蛋白、生理活性脂質の様々な疾患病態との関連およびバイオマーカーの検索などを中心に研究をしています。病態診断医学講座・検査部に籍をおいて最もよかったことは、広い分野の疾患の研究ができるということです。現在の内科学は、ますますその専門の細分化が進んでおりますが、本来、人間というものは単一のシステムから構成されているわけではなく、全体のシステムとして考えなければいけない、ということを実感することができました。

さて、臨床検査専門医試験は、正直なところ、検査部に所属しているための無形・有形のプレッシャー?により受験しました。専門医会の春季セミナーが近くで開催されるとのことで、参加させていただきましたが、その頃は、輸血のうら・おもて試験、グラム染色の陽性・陰性さえも自信がない状況でした。セミナーの翌週、いろいろな本を購入し、2か月間、帰宅後、0時くらいから、眠くなるまで、あまりなじみのない分野を中心に、血液50%、微生物20%、輸血20%、その他10%くらいのエフォートで勉強しました。おかげさまで、合格することができました。それなりに大変でしたが、「試験に受かりに行く」、という感覚は、受験・国家試験以来久しぶりの感覚で、むしろ胸の高鳴りを覚え、楽しかったのかもしれない。合格したのは良かったのですが、自分としましては、もう少し点数をとれたはず、という少し悔しい思いが残りましたが、この気持ちは、今後生涯勉強をしていく糧としたいと思います。

また、当然、試験に合格するよりも、検査専門医の資格を取得して何をしたいか、ということが重要であります。恥ずかしながら、まだピンとくるものはありません。ただ、ともに働いている若い臨床検査技師の毎日同じ業務をやっている中で、ささいな事象でも探究しようとする姿勢や、業務後に遅くまで研究をしている姿勢を見ていると、この資格を持つ限り、彼らのリサーチマインドが腐らないように、サポートできる能力・資質を備えるように努力していけないといけない、と感じております。決して希少な資格を持つことにあぐらをかいて楽な道を進まないようにしなければなりません。今後ともご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

(東京大学医学部附属病院検査部 蔵野 信)



## そして伝説へ・・・

臨床検査科の医師？僕がいるだけで病院経営に大きな貢献になる？？いるだけでいい？？2013年4月、茨城県立中央病院での臨床検査医としてのスタートはまさに晴天の霹靂でした。赴任直後から様々な人に(検査技師にさえ)「検査医って何？一体何するの？」と聞かれましたが、当時は僕自身が一番ちんぷんかんぷんでした。

1年目、何気なく参加した臨床検査専門医会で、母校自治医大の先生方と偶然知り合い、それをきっかけに、大学での専門医研修を開始しました。はじめは検査技師に張り付き、基本的な業務内容を一通り学びました。同時に、超音波研修、医学生BSL、RCPCゼミへも参加しました。先生方の熱心なご指導の下で、まず「臨床検査管理医」を取得しました。

2年目は「臨床検査技師」免許を目標にしました。医師にも臨床検査技師国家試験の受験資格があることを知り、「検査技師の業務を理解し、もっと近い距離で仕事がしたい」という思いから挑戦しました。結果的にこれは、専門医試験の基礎作りに良い経験となりました。

3年目、いよいよ「臨床検査専門医」を目指します。まず5月の専門医会教育セミナーを受講し、その資料を中心に勉強しました。そこでは昨年度の合格体験談も拝聴出来たので、大変参考になりました。筆記対策として、検査技師国家試験の過去問を数年分こなした後、「緊急検査技師」「二級検査技師」過去問(日本臨床検査同学院)を解きました。「緊急」は国家試験よりやや実践的な内容、「二級」は各分野のかなりマニアックな内容も含んでいますが、今年の試験ではこれらに類似した選択肢もあり、やっておいて良かったと思えました。参考書は「医学領域における臨床検査学入門(KTC中央出版)」、「標準臨床検査医学(医学書院)」を活用しました。実技は、血液標本・尿沈渣作成、心電図、グラム染色、血液型判定をまんべんなく何度も練習しました。自施設の検査技師にきちんと指導してもらうことが大切だと思います。そして9月、無事合格の通知をいただくことが出来ました。

ゼロからスタートした僕が、なぜ今はこんなに「臨床検査」に魅かれているのでしょうか？ここまでの3年間を振り返って、なんとなくその答えが見えてきました。それは僕がテレビゲームをこよなく愛する「オタク」(笑)で、特にドラゴンクエスト(ドラクエ)のようなRPG(Role Playing Game)の大ファンだからです！？？の方々に説明します。RPGとは、二次元の仮想空間で「主人公」になりきり、現実とかけ離れたファンタジーの世界で、壮大な冒険をするゲームのことです。

いつも通り目を覚ますと、いつもとは違う世界が広がっている、そんな【オープニング】。不安の中歩み始めて、そこが「存在こそ誰もが知っているが、実際に見たことはない伝

説の世界」【臨床検査医学】だと気付きます。はじめこそ、戸惑い、悩み、逃げだしたい気持ちでいっぱいでしたが、広大なその世界を自由に旅していく中で、血液・輸血・微生物・生理などの異世界の住人【臨床検査技師】、修行をつけてくれる仙人【臨床検査指導医】、そして、様々なバックグラウンド(血液内科・病理など)の仲間【同期受験生】との出会いなどを通して、少しずつ経験を積み、レベルを上げて行きます。時には旅に疲れ【体調を崩し】、「ホイミ」【休憩】が必要かもしれません。それでも、自分のペースで歩み続け、長い(3年)の旅を経て、中ボス「臨床検査管理医」、ラスボス「臨床検査専門医」という強大な敵！！に立ち向かっていき、それを乗り越えてついに【エンディング】を迎えます。しかし、それでゲーム終了ではありません。クリア後もその世界で、まだ誰も知らない宝物【研究成果】を求めて、「自分のペースで」、「いつまでも」「やりたいように」冒険を続けられます。

僕はこれまで10年ほど小児科を専門にしてきました。やりがいのある楽しい分野でしたが、毎日外来・入院診療に忙殺され、肉体・精神面では疲労が募り、徐々に自分で考えることをやめ、ただ漫然と業務をこなす日々でした。そんな時、突然放り込まれた臨床検査の世界で、最高にワクワクする冒険の日々の中で、いつしかその魅力の虜になっていったのです。

今年僕は40歳「不惑」を迎えましたが、いまだ迷っています(笑)。ただ、その「迷う」ことさえも楽しく、経験になり、そしてレベルアップに繋がるのが「臨床検査」最大の魅力だと思います。臨床検査専門医になれて嬉しいです。臨床検査という世界に出会えて嬉しいです。これからもこの世界にどっぷり漬かっていきたいです！

僕の心にいまひとつのメッセージが！「そして でんせつ が はじまった」と...

(茨城県立中央病院臨床検査センター 医長 江橋正浩)

## 【編集後記】

巻頭言は、第27回春季大会長のゞ谷直人先生にご寄稿いただきました。今号は、平成28年度臨床検査専門医認定試験の合格者の先生方のお名前も掲載しております。合格おめでとうございます。「会員の声」にご寄稿いただいた、五十嵐岳先生、千葉泰彦先生、後藤和人先生、蔵野信先生、江橋正浩先生、誠にありがとうございます。心より厚く御礼を申し上げます。次号の発行は来年となります。今年もあとわずかとなりました。よいお年をお迎えください。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部 増田亜希子)

### 日本臨床検査専門医会

会長：登 勉、副会長：東條尚子(渉外委員会委員長)、本田孝行

監事：高木 康、佐守友博

常任幹事：木村 聡(広報委員会委員長)、佐藤麻子(全国検査と健康展担当)、土屋達行(資格審査・会則改定委員会委員長)、古川泰司(保険点数委員会委員長)、三宅一徳(庶務・会計幹事)、宮崎彩子(ネットワーク運営委員会委員長)、盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、米川 修(教育研修委員会委員長)

全国幹事：浅井さとみ、五十嵐雅彦、上原由紀、大澤春彦、萱場広之、久川 聡、紀野修一、ゞ谷直人、長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、増田亜希子、松下一之、村田哲也、柳原克紀、横崎典哉、和田隆志

情報・出版委員会：

委員長：盛田俊介

委員：五十嵐岳、出居真由美、清水 力、信岡祐彦、福地邦彦、増田亜希子、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jacpl.org